

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成25年7月18日(2013.7.18)

【公開番号】特開2011-251869(P2011-251869A)

【公開日】平成23年12月15日(2011.12.15)

【年通号数】公開・登録公報2011-050

【出願番号】特願2010-126326(P2010-126326)

【国際特許分類】

C 0 3 C 15/00 (2006.01)

【F I】

C 0 3 C 15/00 G

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月31日(2013.5.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

酸化ケイ素、酸化ホウ素及びアルカリ金属酸化物を含有するガラス体を相分離させて相分離ガラスを作成する工程と、

前記相分離ガラスの表面に粘度が 5 m P a ・ s 以上 2 0 0 m P a ・ s 以下であるアルカリ性水溶液を接触させる工程と、

前記アルカリ性水溶液に接触させた前記相分離ガラスを酸溶液に接触させて前記相分離ガラスに空孔を形成する工程と、を有することを特徴とするガラスの製造方法。

【請求項 2】

酸化ケイ素、酸化ホウ素及びアルカリ金属酸化物を含有するガラス体の表面に粘度が 5 m P a ・ s 以上 2 0 0 m P a ・ s 以下であるアルカリ性水溶液を接触させる工程を有することを特徴とするガラスの製造方法。

【請求項 3】

前記アルカリ性水溶液に含有されるアルカリ成分の濃度が 3 重量 % 以上であることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載のガラスの製造方法。

【請求項 4】

前記アルカリ性水溶液は、前記相分離ガラスの表面に塗布され、
塗布された前記アルカリ性水溶液の膜厚は、5 μ m 以上であることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載のガラスの製造方法。

【請求項 5】

前記アルカリ性水溶液は、粘度調整成分を含むことを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載のガラスの製造方法。

【請求項 6】

前記粘度調整成分は、エチレングリコール、グリセリン、ジエチレングリコール、ポリビニルアルコールまたはポリエチレングリコールから選ばれた少なくとも 1 つであることを特徴とする請求項 5 に記載のガラスの製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

【非特許文献１】江口、「新しいガラスとその物性」（泉谷 編集）、p . 4 7 - 5 7、
経営システム研究所、１９８４年発行

【非特許文献２】毛利、その他、「ガラス工学ハンドブック」（森谷 他 編集）、P .
6 5 1 - 6 5 5、朝倉書店、昭３８年発行